

## お金から学んだこと

滋賀県・滋賀大学教育学部附属中学校 3年 竹本 堯史

今日も円高がニュースの話題だ。1ドル76円台だと騒いでいる。「いいな、今海外旅行に行く人はお得だよな」。買い物大好きな高校生の姉は羨ましそうにつぶやいた。昨年末家族でハワイに滞在した時も1ドル82円ぐらいで「安い安い」と喜んで買い物したくせに。横目でにらみながら為替相場を凝視する僕。そんな悠長なことではない。今日はどれくらい減っただろう！ 僕のお小遣い！

これには理由がある。僕はお小遣いの一部を各国の通貨で持っているからだ。仕事で海外に行くことの多い父は、帰国後必ずその国の通貨を僕にくれる。ちょっとしたお小遣いだ。今では10か国以上の様々な通貨が集まった。最初にもらった時、僕は小学校低学年だったが、父と二つの約束をした。

一つは、「お金からその国を知る努力をすること」。地図を広げ、位置や首都を調べるのは当然のことで、楽しみにしているのは、父が外貨を渡しながらかけてくれる話だ。食事、気候、人々の暮らし、文化など写真を添えて生きた情報が得られるからだ。例えばポルトガルの教会の壁は人骨でできていたことや、メキシコの遺跡に大きなイグアナのようなトカゲがウジャウジャいたこと。時にはドイツで財布をすられたり、フランスでストに巻き込まれたり。ドキドキしたり強烈だったりするけど、僕にはとても楽しい時間だ。今も各国のお金を見ると自然と思い出され、更に調べたくなり、興味は増してゆくようだ。

もう一つの約束は、「いつかその国へ行ってこのお金を使えるようになること」。わざわざ換金しないで残しているのは、いつかその国へ行きたいという夢と興味を持ち続けて欲しい。そして夢の実現のために世界情勢、経済を学び、視野を広げ、やがては自分のできる国際協力をして欲しいという、父の願いである。こちらについては実現まで長い時間が必要だが、僕の夢にもなりつつある。何らかの形で、少しでもいいから国際社会に貢献できる仕事、いや人間になりたいからだ。

最初はお金とはいえ日常では使えないので申し訳ないが、おもちゃのように

感じ扱っていた。ところがその後実際にアメリカでドルを使用した時に「やっぱりお金だ」と当たり前のことながら改めて実感したのを鮮明に覚えている。そして最近になって各国の通貨を並べ比較してみると、それぞれ、デザイン、色彩、大きさ、紙の質も異なり結構面白い。中でも絵柄を見ているとその国の歴史がわかることに気が付いた。日本や韓国など多くの国は自国の歴史上の偉人(文化人)が描かれ、世界遺産になるような有名な風景、建築物が描かれていることが多い。アメリカは歴代大統領や政治家。しかしユーロは人物ではなく欧州の時代様式を象徴する架空の建築物が描かれている。これはヨーロッパ連合という多国籍間での共通通貨だからであろう。ロシアも主要都市と銅像が描かれている。国家的思想が感じられるものもある。中国では毛沢東、僕は持っていないが旧ソビエトはレーニンが描かれていたらしい。王室のある国は女王、興味深いのはニュージーランドもオーストラリアも英女王が描かれていること。かつての植民地支配を経て、今もなお密接な繋がりがあつたのだ。また紙幣からその国の経済状況も垣間見える。インフレの激しい国では、恐ろしいほど高額な紙幣が流通していたり、資源に乏しい国では紙や印刷技術に難があつたりもする。先進国といわれる国々では、日本も含め偽造紙幣の防止のため、透かし模様、手触り、色彩等高度な技術を駆使しているが、全容は明らかにはしていない。また視覚障害者への配慮のされたものも多い。こうして考えると、改めてお金から学ぶことの多さに驚いた。

為替相場はまだ円高更新を叫んでいる。肝心の僕のお小遣いは、ここ1年はドルもユーロも下がりっ放しで、かなり目減りしているのが残念だ。だけど実際に換金しないので、紙の上だけの増減にしか思えず、正直言うとゲームのような感覚だ。でも現実には、円高になると僕のように損失をこうむる人と、利益を得る人が国内外を問わずたくさんいるはずで、何も生産していないのに、お金が多くのお金を生み出したり、失ったりすることに違和感があるのは僕だけだろうか。こうしてじっくり考えてみるとお金はただ単なるツールではなく国を象徴する重要物であり、安定し信頼できる価値が崩れると、国をも揺るがす危険な物になってしまうだろう。

お金は大事だ。なくては本当に困る。しかし、お金より大切なものも数多くあるし、お金では手に入らないものもある。僕も父から「お金ではあつてお金ではない」、そんな大切なものをもらったようだ。